

「にぎわいづくり」について、経験を踏まえた個人質問を行いました！

第15回（平成26年11月）定例会で行った個人質問の内容を紹介します。

超高齢化・人口減少社会の中で、全国の自治体がそれぞれに工夫を凝らして、交流人口の拡大や定住人口の増加のための努力をしている。



本会議場での登壇の様子

各種イベントを通してまちのにぎわいを創出することは、交流人口の拡大のために有効な手段の一つ。

市民の豊かな暮らしづくり（※1）という面においても、より一層イベントの推進を図り、にぎわいを創出していく必要がある。

質問（1回目）

まちに訪れる人を増やし、まちに対する人々の評価を高め、また市民の生活の質や満足度を向上させることができると考え、この1年の間に様々なイベントを企画・運営してきた。

イベント名	概要
アスルクラロ沼津応援フェスタ	地元サッカーチームの試合観戦前に、競技場前の広場にて、訪れた家族が体を動かして遊べる場を提供。
駅北ビアガーデン	JR沼津駅北口前の広場を利用して、飲食やステージを提供。
スポーツ交流フェスタ	圏央道の開通による関東圏からの誘客を狙った実証実験事業。スポーツ大会・宿泊・交流・自然体験を組み合わせて提供。
沼津街中大道芸フェスタ	沼津中央公園などの会場で、大道芸などのステージや、飲食・物販などを提供。



実施者においては、人や物品の手配や各種申請などの準備段階で苦労することが多いのが実情。（※2）どのような支援をしているか？

個々のイベントの連携がとれておらず、お互いに情報が伝わっていない印象がある。（※3）市の考え方や取り組みは？

市内で実施されるイベント全体を包括した情報の整理と、集客のためのさらなる周知が必要。（※4）市の考え方や取り組みは？

答弁（1回目）

市職員がイベントの実行委員や運営スタッフとして参加・協力する人的支援のほか、各種申請手続等への相談対応や、財政的な支援をしている。

燐々ぬまづキャンペーン等により、夏祭りを初めとする各種イベントのネットワークづくり等を行っている。

市ホームページやメールマガジン、イベントカレンダーなど、様々な媒体を用い、総合的な情報発信を行っている。



今後とも、市民意識の変化やソーシャルネットワークの普及等の状況に対応しつつ、まちの活性化につながる民間主導のイベントにさまざまな形で支援を続けていく。

※1 現在のイベントは、スポーツ・子育て・健康づくり・環境・動物愛護など多岐に渡り、市民それぞれが暮らしを楽しむ一つの方法という側面も有しています。

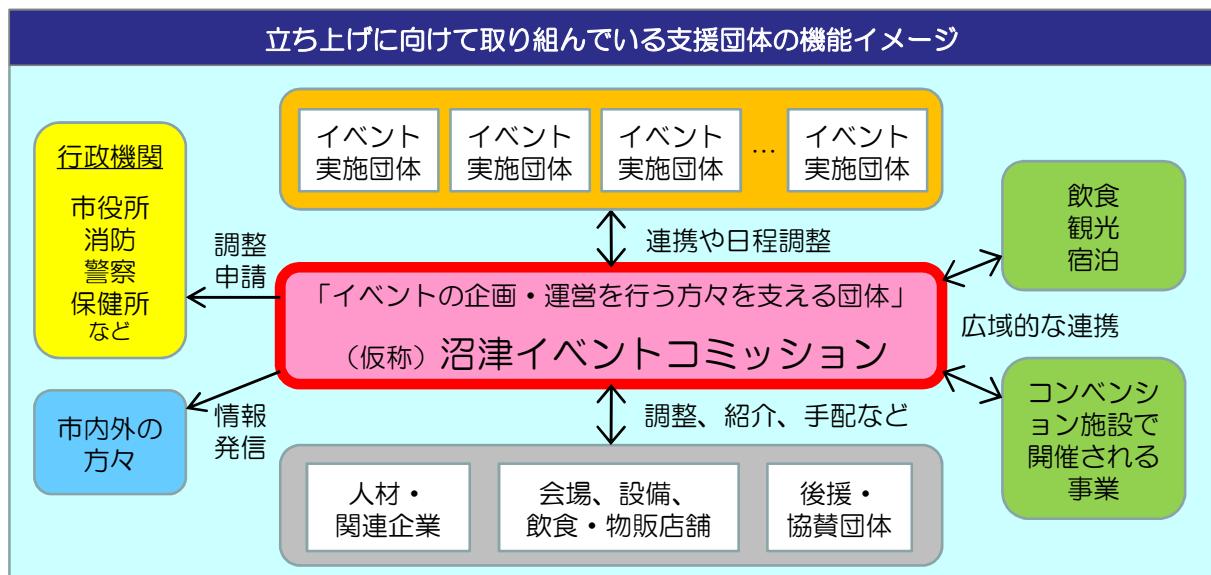
※2 事前の企画・準備や当日の運営を行える人材を得るには、大変な苦労を伴います。また、テーブル・イス・テントなどの備品や電源、飲食・物販店舗といったモノの手配、市役所・消防・警察・保健所などへの届け出、整理された知見などではなく、特定の個人や団体に頼る場合が多いのが現状です。

※3 思いのある個人・団体や事業者などが自発的なイベントを実施することで盛り上がりを見せている反面、意図しない開催日程の重複なども起きています。これまで以上に実施者同士が情報を共有し、意図的な日程調整や連携を図ることで来場者の回遊性を向上させ、また、まちの一体感を生み出せる段階にきています。

※4 實施者および市による周知活動がされていますが、まだまだ情報を伝えたい相手に情報が届いていない印象があり、やり方を改善していく必要があります。

1回目の質問で挙げた問題は、昔も今も変わらない。解決のために誰がどう汗をかくかだけ。自発的なイベントという姿で市民協働の形が現れている今こそ、官民両面で取り組みを始める時。

官民両面の「民間」が行う取り組みとして「イベントの企画・運営を行う方々を支える団体の立ち上げ」が有効と考え、取り組みを始めている。



会場の確保、行政機関との調整、企画・運営を行う人材の紹介、関連企業の斡旋、広報・PR支援などの機能により本市における自発的なイベントの開催を支えること。また、単純に支えるだけではなく、観光・飲食・宿泊ならびにコンベンション施設で行われる事業との連携や、県東部地域としての広域的な連携の可能性も視野に入れて、賛同者を募っていきたいと考えている。

官民両面の「官」の側においても更なる取り組みを進め、またその際は「民間」との間で、連携して取り組んで頂きたい。イベント実施者同士の交流の場づくりや、広報・PRのノウハウを学ぶセミナーの開催など、課題解決に向けた、更なる具体的な取り組みが必要だと考えるが、市の考えは？

答弁（2回目）

市の対外的なPRとまちのイメージアップを図るシティプロモーションに取り組んでいるが、その推進に当たり、各種イベントを企画され、まちづくりを牽引している方々の横の連携を図る、沼津の魅力プロデュース会議を開催している。この会議では、各団体の方が日ごろの活動を通じて感じる思いやアイデアを発言頂き、更なるまちの魅力のPRや新たなイベントなどの企画の提案がされている。

今後もこのような交流の場づくりを進めるとともに、議員が指摘するセミナーの開催も含め、イベントの趣旨や対象者を踏まえたPRの方法やパブリシティーの有効活用等についてイベント実施者の方々とともに検討を行うなど、より多くの人が参加しやすい円滑なイベント運営に向けて、できる限りの支援をしていく。

深田のぼるよりひとこと

まちに訪れる人を増やし、まちに対する評価を高め、市民の生活の質や満足度を向上させるための様々な取り組みをする中で、おぼろげではありますが、多くの課題とその課題解決に向けた枠組みが見えています。後はやるだけです。行政の対応をただ待つ必要はありません。時間はかかるかもしませんが、前向きに地域を変えていこうとする方々と一緒に取り組んでいこうと思います。

ご意見・ご要望がありましたら、後援会事務局までご連絡ください。

